

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 5 月 28 日現在

機関番号：11101

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23520541

研究課題名(和文) 東北日本海域における近世言語生活に関する研究 - 往来物資料からの分析 -

研究課題名(英文) Analyzing OURAIMONO documents to research on the early modern dialect in Northern West Coast of Japan.

研究代表者

郡 千寿子 (KOHRI, Chizuko)

弘前大学・教育学部・教授

研究者番号：50312476

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,900,000 円、(間接経費) 570,000 円

研究成果の概要(和文)：東北地域所蔵の往来物資料について、書誌的文献学的な紹介とともに、その分布や偏在状況を提示した。近世期における東北の諸地域の教育環境や文化的背景を考察検討するうえで、それら資料が重要な示唆を与えてくれるものであることが判明した。研究成果として、最も重要な点は、近世期の東北では、日本海沿岸と内陸部の文化的土壌が違っていたことが立証できたことである。日本海沿岸(秋田・酒田)は、京都大阪といった関西圏からの影響が大きく、内陸部(弘前・山形)は江戸からの影響が大きかったことを明らかにした。

研究成果の概要(英文)：This research presented an uneven distribution of OURAIMONO documents in the Tohoku region along with its bibliographical and philological introduction. The results also demonstrated those documents played an important role in order to discuss the educational environment as well as socio-cultural settings in such regions as Aomori, Akita, Iwate and Yamagata during the early modern period. The most significant result, however, said that the west coastal area differed from the central area in terms of its socio-cultural settings in this period, that is to say, the coastal area was greatly influenced by cultures in Kyoto and Osaka, and the central area was affected by Edo respectively.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・日本語学

キーワード：言語生活 往来物 北前船 東北 日本海域

1. 研究開始当初の背景

(1) 往来物研究の背景

往来物は、近世から近代において、知的文化的ネットワークを形成し、生活規範確立に寄与してきた、日本社会の近代化に関わる重要な資料群である。

2001年には『往来物解題辞典 図版編』『往来物解題辞典 解題編』(石川松太郎監修、大空社)が刊行された。しかし、資料があまりに多岐にわたり、膨大であるために、資料の発掘や整理も不十分で研究がすすんでいない状況にあった。

(2) 学術フロンティアへの参加

2004年から5か年計画でのCOE研究に参加した。研究拠点は武庫川女子大学で、アメリカ、フランス、イギリス、韓国、中国他海外からの研究者17名を含めて学外研究者76名が参加した研究プロジェクトである。研究テーマは、「関西圏の人間文化についての総合的研究 文化形成のモチベーション」で、その中の「言語・コミュニケーションの混交と再生」の研究グループにおいて「関西における往来物・節用集の出版と生活コミュニケーション形成に関する研究」を共同で担当した。往来物を利用した研究分野の開拓と推進の契機となった。

(3) 科研費基盤研究(C)の採択

2007~2009年に「北東北における近世庶民生活に関する研究 往来物資料からの解明」と題した研究テーマで科研費基盤研究(C)に採択された。

これをきっかけに北東北地域所蔵の資料群についての調査を順調に開始し継続することができた。分類や整理をはじめとして、青森、弘前、岩手、秋田といった北東北地域の所蔵往来物を中心にその書誌的紹介や資料的価値などの研究成果を公表した。

往来物が、教育史の資料としてだけでなく、地域社会における言語生活の反映や文化形成に果たした役割などを読み取ることが可能であることが明らかとなり、北東北だけでなく、周囲へと調査研究を拡大発展させる必要性を実感した。そうした研究経緯によって本研究のテーマにつながった。

2. 研究の目的

(1) 北東北における研究成果をふまえ、本研究では東北日本海域の文化圏を想定し、所蔵往来物の資料性について、書誌的文献学的研究を基盤にすすめる。

(2) 近世期の東北文化圏における言語生活の実態や地域社会の文化形成を解明する。

(3) 地域ごと(青森・秋田・岩手・山形)の共通性や相違性を提示する。

(4) 東北文化圏への関西文化の普及と受容の様相を探求する。

3. 研究の方法

(1) 日本海域(松前・秋田・山形)に所蔵されている往来物資料の原本を実地で文献調査する。

松前町立図書館
秋田県立図書館
酒田市立光丘文庫
山形県立博物館教育資料館

(2) 書誌的調査を経て、文献資料の内容を検討し、目的別に以下の領域に分類整理する。

教訓科往来
社会科往来
語彙科往来
消息科往来
地理科往来
歴史科往来
産業科往来
理科科往来
女子用往来

(3) 書誌的調査を経て、文献資料の出版地を特定し、出版地域別に分類整理する。

江戸
京都
大阪
仙台
その他(名古屋・奈良等)

(4) 地域ごとの往来物所蔵偏在状況を整理する。

目的別による所蔵往来物調査結果を比較検討し、共通性や異質性を提示する。

出版地域別による所蔵往来物調査結果を比較検討し、共通性や異質性を提示する。

往来物の所蔵状況の研究結果を整理し、考察分析する。

(5) 文献資料を内容面から考察検討する。

研究すべき文献資料を抽出し、近世期の地域社会、生活文化、言語生活、教育背景などについて考察検討する。

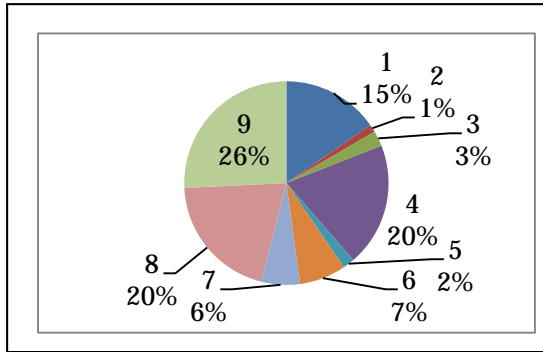
東北と関西との文化伝播過程について、往来物資料の研究調査を通して分析解明する。

4. 研究成果

(1) 松前町立図書館と函館市立図書館の所蔵資料について

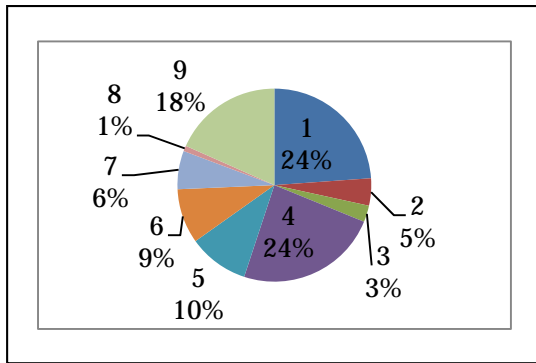
松前は火災で焼失した資料が多く、該当の文献がほとんどないことが判明した。函館においても地理科往来は多少確認できるが、近代以降の資料がほとんどを占め、該当の近世期の文献資料が少ないことが判明した。

(2) 酒田市立光丘文庫所蔵資料について
 所蔵数が163本と多数であることが確認された。最多は女子用往来で42本、26%という結果であった。次いで多いのが理数科往来の33本、20%を占めていた。消息科往来も多く32本、教訓科往来が25本、歴史科往来12本、産業科10本、語彙科4本、地理科3本、社会科2本。所蔵数の多さとともにすべての領域の往来物資料が所蔵されていることが特徴といえる。



(3) 山形県立博物館教育資料館所蔵資料について

総資料数は109本であった。最多が教訓科と消息科でそれぞれ26本。割合で24%となる。次いで女子用往来20本で18%、地理科11本、産業科10本と続く。歴史科7本、社会科5本、語彙科3本、理数科1本が確認された。酒田と同様にすべての領域の資料が見られた。



(4) 目的別分類による所在資料についての比較検討

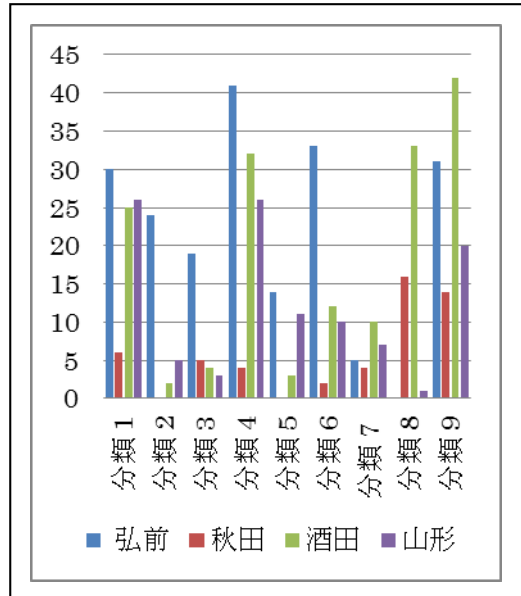
所蔵資料数などから、比較検討に値すると考えられる地域 弘前・秋田・酒田・山形について考察検討した。

弘前では総資料数が197本と最も多いが理数科往来の所蔵が皆無であり、一方で秋田県立図書館と酒田市立光丘文庫では、一般的に少ないといわれる理数科往来の所蔵が多数確認されたことが特徴といえる。こうした地域ごとの偏在状況をグラフ化して提示した。

またどの地域においても、教訓科、消息科、女子用の三種が比較的その所蔵割合の様相が類似しており、当時、安定的に供給された領域の資料であったことが知り得た。

目的別に整理した結果として、資料の地域による偏在状況は、それぞれの地域の教育的

な背景と大きく関係しているらしいことが推測された。



(5) 出版地域別による研究調査結果について

出版地域ごとに分類整理すると、弘前市立図書館所蔵資料197本の内訳は、江戸156本、京都20本、大坂16本、仙台5本であった。

秋田県立図書館所蔵資料52本の内訳は、江戸19本、京都13本、大坂8本、秋田2本、名古屋1本、不明9本であった。

酒田市立光丘文庫所蔵資料163本のうち、出版地域が特定できたものは125本であった。江戸61本、京都29本、大坂34本、伊勢松坂1本であった。

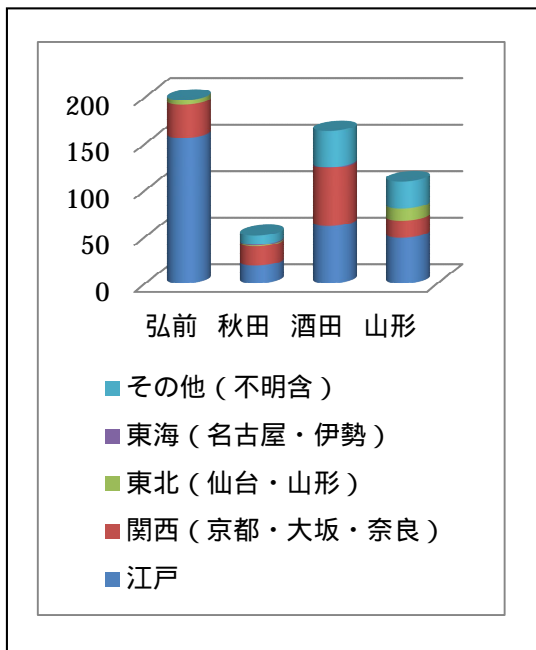
山形県立博物館教育資料館所蔵資料109本のうち、出版地域が特定できた80本は、江戸49本、京都10本、大坂7本、仙台8本、山形5本、南都1本であった。

山形県内であっても、地理的に内陸部にある山形と日本海沿岸部である酒田において、それぞれ所蔵資料の出版地域の割合において相違が確認できたことは興味深い結果であった。

山形では、仙台や地元山形といった出版三都（江戸・京都・大坂）以外の地方出版の存在や影響がうかがえた。一方で、酒田では、江戸が多いとはいえ、京都と大坂を合わせると63本となり、江戸を凌ぐ関西出版文化圏からの流入をみてとることができる。

他方、秋田では、京都と大坂を合わせ21本となり、江戸の19本を上回ることが明らかとなった。一方で、弘前では、京都や大坂より、江戸が圧倒的な優勢を示しているのであった。

こうした偏在の様相は、日本海海域である秋田と酒田は、関西出版圏からの影響が大きく、内陸部である弘前と山形が関東出版圏からの影響が大きかったという重要な示唆を与えてくれたのである。



(6) 特定の資料を利用した研究成果

弘前市立図書館に所蔵された地理科往来資料のひとつ『都花月名所』を用いて、近世期後期の漢字表記と振り仮名の関係性を分析考察し、国語資料としての利用が可能であることを立証した。地理科の文献資料を新たな視点で研究利用した提案例ともいえる。

山形県立博物館教育資料館所蔵の『南都名所記』について書誌を報告し、東京都立図書館所蔵本との比較検討など諸本の位置づけを行った。奈良の名所案内である同書が山形に所在した背景についても考察し、地域社会研究へとつなげた。

往来物資料に見られる教育観について検討し、現代の学習指導要領の改訂との関連性について考察検証した。加えて女子用往来を用いた具体的な女言葉の分析事例から、現代語へとつながる言語変化過程を明らかにした。

こうした個別の文献資料による研究成果によって、往来物資料が、近世期の社会事情や教育環境、地域研究に役立つだけでなく、現代の教育的な課題や言語史研究にも資するものがあることを実証した。

(7) 総括

東北地域に所蔵されている往来物資料についての分類整理と個々の資料研究から、多くの成果があった。

江戸時代には、西廻り航路の北前船が東北に関西から直接に物資を輸送していたことが知られている。往来物の所蔵について調査した地域の秋田と酒田は、その寄港地でもあった。物資の輸送の中には、書籍といった出版文化もふくまれていたらしいことが今回の研究結果から確認できたといえる。

物資とともに出版を含む関西文化が、日本海沿岸の地域には直接にもたらされ、受容されていたと考えられる。往来物資料の出版地

域による偏在傾向は、陸路だけでなく、海路によっても、文化が運び込まれていた傍証となり、文化交流や伝播の一面を往来物資料の研究成果から提示したといえよう。

個々の文献研究からの成果としては、たとえば地理科往来からは人の行き来や交流、地域観だけでなく、読み書き能力の実態までも推測しえた。女子用往来からは、子女に対する教育観や女ことばの変遷といった言語教育の側面についても分析検討できた。

これら本研究の成果は、東北の地域性や文化特質を考える際の視点としても重要であり、それぞれの社会基盤や教育背景の解明に大きく寄与するものである。従来、未解明だった往来物資料の有効性や活用法を新機軸から提案し、地域研究や社会学、女性学や言語史といった多方面の研究分野にも影響を与える可能性があるといえよう。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 9 件)

郡千寿子、往来物にみる教育観 近世庶民生活におけることばの修得、文学語学、査読有、第 209 号、2014、53-65

郡千寿子、外来語受容の背景 BEER をめぐって、日本語文化研究、査読有、第 3 輯、2014、頁未定

郡千寿子、秋田県立図書館所蔵往来物の出版地域に関する一考察 弘前・酒田・山形との比較検討、弘前大学教育学部紀要、査読無、第 111 号、2014、1-6

郡千寿子、『南都名所記』についての一考察 山形県立博物館教育資料館所蔵本の資料性、弘前大学教育学部紀要、査読無、第 110 号、2013、1-8

<http://handle.net/10129/5085>

郡千寿子、山形における江戸時代の書籍流通について 往来物資料の出版地域からの検討、弘前大学教育学部紀要、査読無、第 109 号、2012、1-6

<http://handle.net/10129/5073>

郡千寿子、山形県立博物館教育資料館所蔵の往来物資料 目的別分類からの考察、弘前大学教育学部紀要、査読無、第 108 号、2012、1-7

<http://handle.net/10129/5049>

郡千寿子、近世日本語の一面 往来物資料からの分析、日本語文化研究、査読有、第 2 巻、2012、187-193

郡千寿子、酒田市光丘文庫所蔵の往来物資料 目的と出版地からの分類分析、弘前大学教育学部紀要、査読無、第 107 号、2012、1-6

<http://handle.net/10129/4570>

郡千寿子、国語資料としての『都花月名所』江戸時代後期における漢字表記と振り仮

名、弘前大学教育学部紀要、査読無、第 106 号、2011、1-7
http://handle.net/10129/4531

〔学会発表〕(計 6 件)

郡千寿子、東北日本海域における関西文化の受容について、第 32 回異文化研究会、2014 年 1 月 31 日、大阪学院大学

郡千寿子、弘前・秋田・山形所在の往来物資料についての一考察、第 108 回全国大学国語国文学会、2013 年 12 月 9 日、宮崎観光ホテル

郡千寿子、日本語における外来語受容の背景 BEER をめぐって、第 3 回中日韓朝語言文化比較研究国際シンポジウム、2013 年 8 月 20 日、中国・延辺大学

郡千寿子、ことば今昔ものがたり、特別講演会、2012 年 9 月 5 日、中国・延辺大学

郡千寿子、日本語の「女ことば」について 往来物資料から考える、特別講演会、2012 年 7 月 26 日、韓国・東亜大学

郡千寿子、近世日本語の一面 往来物資料からの分析、中日韓朝言語文化比較国際シンポジウム、2011 年 8 月 23 日、中国・延辺大学

〔図書〕(計 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

取得状況(計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

郡千寿子 (KOHRU CHIZUKO)

弘前大学・教育学部・教授

研究者番号: 50312476

(2) 研究分担者

()

研究者番号:

(3) 連携研究者

()

研究者番号: